

## DPRI Award 設立の趣旨および第 2 回 DPRI Award 受賞者決定の経緯

研究教育担当副所長 川瀬 博

防災研究所では、自然災害に国境はないことから、従来から国際交流協定の締結、国際共同研究・海外災害調査や留学生・海外共同研究者の受け入れに積極的に取り組んできていますが、平成 22 年度よりの全国共同利用・共同研究拠点としての認定、さらに昨今の世界に開かれた国立大学を指向する潮流を受け、頻発する国内外での自然災害に備えるための国際防災研究拠点としての地位を確立するために、様々な新しい取り組みをしてきています。

その一環として平成 23 年 3 月に「京都大学防災研究所国際表彰規程」が承認され、DPRI Award が設立されました。その表彰の要件は概略下記のようになっています。

- 1) 防災研において、客員教員や共同研究者などとして滞在し、セミナーや共同研究などを実施し、防災研の研究教育に成果を上げた方
- 2) 防災研が主催する研究集会等において、基調講演、招待講演等を務め、又は企画運営に携わり、防災研の活動に貢献した方
- 3) 防災研が実施する国際共同研究及び現地調査等において貢献した方

その後、平成 25 年度にはカリフォルニア工科大学名誉教授の金森博雄博士に第一回の防災研究所国際表彰 DPRI Award を授与いたしました。

今回平成 26 年度の国際表彰につき、平成 26 年 10 月に防災研究所の 2 名の准教授からの推薦があり、表彰委員会で慎重に審議した結果、メキシコ自治大学教授のサンチェズセスマ博士を第 2 回の防災研究所国際表彰 DPRI Award の受賞者として所長に推薦すること、その賞の副題は「研究教育業績賞」とすることを決定いたしました。その後、所長の承認を受け、これを教授会に諮り承認されました。

サンチェズセスマ教授は 1950 年メキシコシティに生まれ、1975 年にメキシコ自治大学工学研究科から工学修士を取得後 1976 年から同大学の工学研究所教授に着任、1979 年に工学博士を取得されました。その後 1997 年から 1999 年にはメキシコ石油公団研究所にも勤務され、1999 年から 2003 年にかけては

工学研究所所長も務められました。現在もメキシコ自治大学工学研究所と地球物理学研究所の併任教授として後進の指導に当たられています。この間、40年近くに渡り地震学・地震工学の第一人者として、地震波の散乱・回折・干渉現象、堆積盆地・地形効果による増幅特性など、波動伝播に関する幅広い分野において常に最先端の研究をされ、特に理論的なメカニズムの解明を数多くされてきました。その研究成果は膨大な量の研究論文として発表されており、現在でも毎年数多くの研究論文を発表されておられます。サンチェズセスマ教授は、2001年から2年間メキシコ地震学会会長を務められ、2004年から2年間メキシコ科学アカデミーの会長も務められました。また、Mexican National Sciences and Arts Award (Mexican Civil Engineering College から) や Luis Esteva Medal 2011 (Mexican Society of Earthquake Engineering から) など多くの賞を受賞されています。

防災研究所においては、招へい外国人学者として、1988年度、1991年度、1994年度にそれぞれ2~3ヶ月、外国人客員教授として2010年度に4ヶ月滞在され、「三次元波動伝播解析法」や「表面波を用いた地盤構造の同定」、「擬似スペクトル法による不均質地盤解析」や「拡散波動場理論に基づく地盤構造同定手法」に関する共同研究・研究指導をされてきました。また、これらの研究内容に関連した地震学の講義・ゼミナールを行い、地震学・地震工学・耐震工学を中心とした地震防災に関係する分野の学生、若手研究者への教育を熱心に行われました。その結果は Aoi et al. (1995)や Sánchez-Sesma et al. (2001)、Kawase et al., (2011)、Matsushima et al., (2014)など7編の審査論文に結実しています。

これらサンチェズセスマ教授との共同研究や彼の学生・若手研究者への長年にわたる研究・教育の実績は防災研究所の国際プレゼンスの向上に大いに寄与してきました。サンチェズセスマ教授にはこれまでのご貢献に深く感謝するとともに、今後も受賞者に授与される終身称号の **DPRI Fellow** として、防災研究所の研究・教育に大所高所からご指導・ご助言いただければ大変ありがたいと思っています。